

楽器の工夫と

その使用について

志保田 和子

幼児は、自分達の手でものを作ること、そしてその作ったものを実際に動かして遊ぶことに非常な興味をもっています。

今回は「打合せて音を出す音響楽器」について考えて見ましたが、今回は主として「振って音の出るもの。―ラトル―」の数種について述べましょう。

たいていの容器は中にもものを入れて動かすと必ず音が出ます。

例 乾燥したひょうたん・厚紙の円筒・ブリキかん・ケチャップ
やマヨネーズの瓶・風船・袋・テニスボール・台所用具など、

これら容器の中に

小石・おはじき・乾燥大豆・えんどう豆・南瓜やぶどうなどの種子・釘・ボタン・その他
音のために良いと思われる細かい材料

を入れることによってさまざまな音を得ることができます。

次に数例を記します。

◇二つの紙コップを、中に鈴を入れて、セロテープで合せます。色マジックインクや絵具で美しい模様をつけて仕上げます。

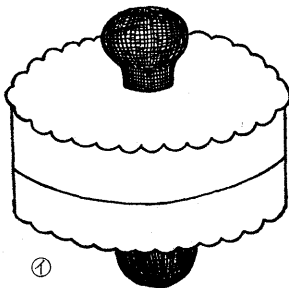
◇プラスチックのコップ二つを、中に豆・大麦を入れてテープで合せ、周りに鈴をつけます。

◇貝殻の中にサラサラした砂を入れて木の柄をつけます。

◇ビスケット型の中に豆を入れ、二つを色ビニールテープで合せます。

.....①図

◇コーヒークャンの中に釘を入れ、蓋をテープでとめます。かんに穴をあけて先のがった木をさしこんで柄をつけます。



◇テニスボールに小さい穴をあけて、小石または砂を入れ、柄のた
めに棒をさし込みます。

◇ひょうたんのよく熟したものを水につけて中の種子をぬき、よく
乾燥し軽く木質になったら中に小砂や豆などを入れます。入れるも
のによって音が異なります。

◇マヨネーズびんにボタンを入れて蓋をします。外側は、きり紙で
美しく模様をつけます。

◇茶こし二つを向い合せにして、中に小石を入れ鈴をさげておき、
テープでとめます。また小石の代りに小鈴二、三個を入れて、軽く
回しながら振ると草むらになく鈴虫の音が聞えます。

◇紙コップやアイスクリームカップの中に、大豆・小石・砂・種子

①



などを入れ蓋をして糸りぼんどじて、色マジックインクで模様を
つけます。

中に入れるものによって音が変わるので、音をききながら中に入っ
ている物が何かをあてることも出来て、耳の訓練あそびにもなりま
す。

写真① 紙コップ利用ラトル

写真② アイスクリームカップ利用ラトル

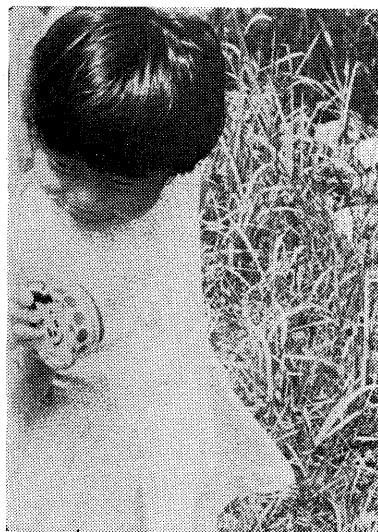
◇リングベル

刺繍の枠に鈴をつけて作ります。

写真④ 向って右||ごく短かいひもで鈴をつけてあります。

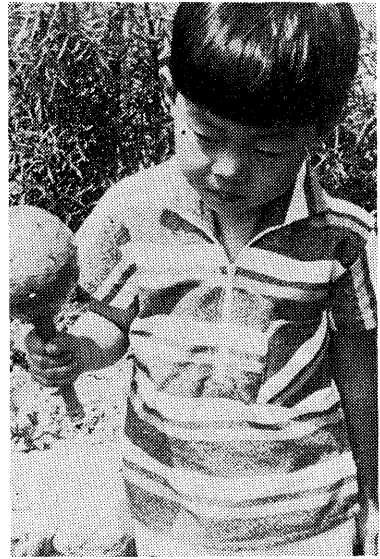
向って左||3cm位のひもで鈴を枠にさげてあります。

持ち方、振り方によって奏でる音がちがって聞えます。



②

③



◇鈴つきリズムスティック

リズムスティックの片端に鈴をつけた？型ねじをさし込んで作ります。……㊦㊧

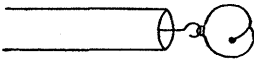
◇タンバリン

適当なサイズのたが、または輪形の枠に、タイヤチュープのゴムやニスをぬった布、または皮の何れかをピンと張って鼓面を作ります。

枠の四、五箇所にびんの王冠をゆるく通してとめます。王冠の代りに鈴を使用しても美しい音がします。

写真⑤ 砂篩いの枠を利用して三味線の皮を張り、画

鋏でとめて鼓面を作りました。枠に大鈴が五個



㊦

つけてあります。幼児は、鼓面・枠面・鈴、の各部分を各人各様に利用して楽しく遊びます。

◎鈴には鉄鈴・真鍮鈴などその金属の種類や製法により数多くの種類があります。

鈴専門の店に行つて意図を了解してもらえば、幼児の音楽経験のために適当な良い材料を手に入れることが出来ます。

◇三種類の青銅の鐘（高さ3cm位で名寺の鐘のひな型）を振り合せますと余韻を含む美しい音がひびきます。……㊨㊩

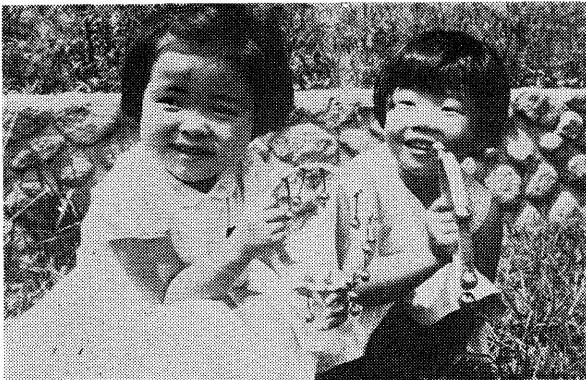
◇ゴム風船利用ラトル

写真 ③

この作り方は当学ビービー先生に見せていただいたりーフレットから暗示を得て専攻科学生と試みたものであります。

○材料 〓 ゴム風船・ひも

・新聞（貼る時に厚さを平均させるために種類の



④

ちがうものを一枚ずつ）絵具・ニス。

○作り方

(1) ゴム風船に空気を入れて適当な大きさにふくらませ空気がぬけないようにひもでくります。

(2) (1)の風船を水で濡らして、仕事がい易い高さに吊ります。

(3) 新聞紙を4cm四方位の大きさにちぎります。

(4) 糊をつけないで(3)の新聞紙を万べんにぬれた風船に貼ります。

(第一回目は普通の新聞紙を使用します)……②図

(5) 第二回目以下は糊をつけながら貼って行きますが、

第二回目は色のついている新聞紙

第三回目は普通の新聞紙

第四回目は色のついている新聞紙

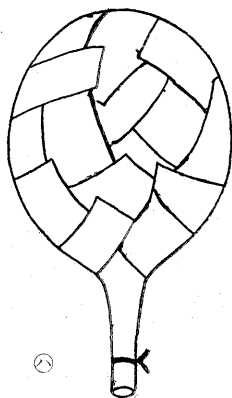
というように貼ります。接ぎ合せ目も同じ箇所にならないようによく考えて紙の厚さを平均させることに留意します。

(6) 四回、万べんに貼

り終えましたら最後に和紙を一重貼りつめます。

(7) よく乾燥させます。

(8) 風船の空気をぬき風船をとり出します。



(9) 大豆（音を考えた

がら他のものを入れてもよろしい）を入れて穴をしめます。

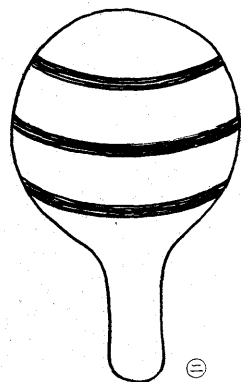
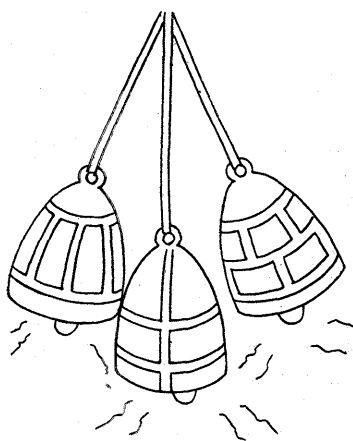
柄をつけます。

(10) 絵画で模様を描き

よく乾いたら速乾ニスをぬって仕上げます。……③図

◎これをまりの形に作り中に鈴を入れて、年少児が転がして遊ぶために使用することも出来ます。

この他



⑤



「吹いて音を出すもの」 麦笛・豆笛・貝笛……

「打って音を出すもの」 音楽コップ・シロフォン。コーヒールかんシ

ンバル・バイ皿シンバルなど

「指先ではじいて音を出すもの」

写真⑥ ひょうたんのマンドリン

など、教師や幼児の工夫によって、数多くの音響楽器を製作することが出来ることと思います。

◇ — ◇ — ◇ — ◇

打楽器の使用について

グループの一員としてそのグループの中で行動するという経験は幼児にとって非常に必要なことであります。

打楽器を製作したり、これを使って遊ぶことは、他の子どもと自分との関連性を認識する良い機会であり、また、良い訓練の場であると考えます。最初は各自で別々に自分が手にしている楽器を打ったり、叩いたり、振ったり、ころがしたりしますから、そこには何らの調和もなくただ騒々しいばかりです。これは単に一つ一つの楽器の音を別々に試しているにすぎませんが、回を重ねるに従って抜い

方にも馴れ、そのかもし出す音に親しみを感ずるようになります。

そして単純な紙コップラトルの音でも、それから出る音が隣の友の持つ楽器とどういうふうに関係しているかということに気がつくようになります。これが大きな集団の中の自分を意識する初めでもあります。

ピアノや蓄音機はこ



⑥

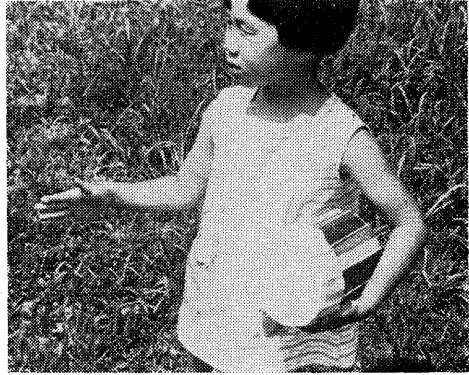
これらの楽器遊びのために良い助けとなりますがこれらがなくても、子どもたちがよく知っている歌と一しょに楽しく遊ぶことが出来ます。

打楽器を使う場合子ども達は打つことに一心になる余りにバチを力一

ぱい握りしめたり、ラトルを音が出ない程、強く振ることがありますので、出来るだけ自由な気持ちでのびのびと使うように指導することが必要です。

「楽器の中に打ち込んで音を出すのではなくて、楽器の中から快い音をひき出す」ように、手首を軟かにして弾力性をもたせ手や腕の各部分を自由に使うとよい音が出ます。

打楽器はリズム合奏に用いるだけでなく、いろいろな種類のリズム活動の伴奏として用いることが出来ます。



⑦ ミルクかん利用の太鼓を脇にかかえ、大きく腕を動かして打っています。(8月号参照)



⑧ 桶に皮を張って作った太鼓です。指先ではじくようにしながら軽く打って音を出しています。(8月号参照)

幼児が戸外で遊んでいる時に観察していますと、自然に遊ぶ子どもたちの活動の中に数々の興味あるリズムの型を見出すことが出来ます。次に記しますのは六月中旬、雨上りの日の朝、庭に出て来た一人の年長組男児の四分間の活動の記録です。

- 1 背のびしながらゆっくり歩いてコンクリートの道まで来る。
- 2 両手を広げて身体を前屈みしながら歩く。
- 3 かがんで片手を前にふりながら歩く。(虫を見つめる)
- 4 「虫がいたよ」と見せながら得意そうに胸をはって早足で歩く。(虫をにがす)
- 5 辺りを走る。
- 6 両手を後に振り回しながらとぶ。

以上

この子どもはわずか三、四分の間に歩く、走る、とぶ、の活動をしています。また、歩き方にも 1、2、3、4、と変化が見られます。これらの中から一、二をとりあげて太鼓やカスタネットの伴奏で、クラス全体の音楽リズム活動の経験とするのも楽しいことです。

打楽器によるリズム型に合わせていろいろのリズム活動をするのも興味のある経験で、子どもたちは自由に表現活動を楽しむことができます。

- ⑨ 味噌桶に生皮を張って作った太鼓です。草の上に腰をおろし歌をうたいながら両手で打っています。(8月号参照)



- ⑩ 植木鉢の太鼓
てのひら全体を鼓面につけて打っています。(8月号参照)

出来ます。

例

A — — — — —

B — — — — —

C — — — — —

A、「片足とび、片足とび、両足とび」のくり返し

B、六拍歩いて両足とび

C、ギャロップ 以上

このようにして、幼稚園や保育所で幼児のリズム経験のために打楽器を利用し、その音楽的成長に役立たせることが出来ます。

(聖和女子短期大学)